

# PASSAGES

ケイエイガクブのグーなヤツ

## 2012年度卒業生に聞く 大学生活の魅力

■1部経営学科

岡田美帆さん・町田憲保さん

■1部経営情報学科

伊藤理沙さん・内田彩さん

■2部経営学科

齊藤尚さん・南結梨花さん

## 就活Labo

就職内定率

2011・2012年度卒業生内定先一覧

豊平シンクタンク

## 教員の研究紹介

[在外研修編]

伊藤友章先生『ワシントン大学在外研修記』

## 経営学部CSP キャリア・サポート・プログラム

■キャリアデザイン講座

■企業研修

■ビジネスモデル分析



## 1部 経営学科



表彰学生

## 岡田 美帆 さん

■出身高校 千歳

■所属ゼミ 高木ゼミ

## —— 大学生活の思い出

インター大会実行委員会の活動が一番の思い出です。全国の学生が討論やプレゼンを行うこの大会の企画・運営は、新しいことに挑戦したいと考えていた私にとってよいきっかけでした。プレゼン部門を担当する部署の長として活動し、大会間近には夜遅くまで部室に残って部員と作業をし、参加学生への対応や審査員の打診を行なうなど、慌ただしい1年間でした。

大会そのものは反省点が多くありましたか、その人の得意なことを活かす仕事を任せることや仕事に行き詰まっている人をサポートすることなど、活動を通じてリーダーに必要なことを多く学ぶことができました。

## —— 面白かった講義

「経営戦略」です。聞きなれない専門用語が多くあるため不安でしたが、先生の説明や抜粋した新聞記事の事例を通じて理解促進につなげることができたと思いました。理解が進むにつれ、普段の生活で見かける商品やサービスが企業のどのような意図・戦略に基づいて市場に広まっているのかを自分なりに考えるようになりました。

また、「マーケティング」も製品がどのようなサイクルを通じて企画していくのかを学ぶことができ、面白いと感じました。予習課題を通じて自分の意見・アイデアを発信することや、一緒に講義を受けていた友人と課題について意見を交わすことも楽しかったです。

全ての講義に言えることですが、ただ知識や用語を覚えるだけでなく、それが実際の経営でどのように使われているのかを考えることで講義内容に興味を持つことができると思いました。

## —— 経営学部に入ってよかったと思うこと

経営学の科目だけではなく、経営学とは関わりのなさそうな心理学や英語のカリキュラムが充実しているところが経営学部の良いところだと思います。

経営学部で学んでいることが働くときに直結すると感じたのが企業研修を受けたときです。例えば心理学における相似効果や単純接触効果を用いた営業テクニックや、文書やプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルなど、普段学んでいることを実際にみることがありました。

そのため、研修後は「こんな能力を身につけたいからこの講義を受ける」というように自分が働くイメージを持って講義に臨むことができ、社会人になったときに役立つスキルを身に付けられる経営学部に入れてよかったと思いました。

## —— 卒業に際して思うこと

大学生活はあっという間でしたが、様々なことを学んで様々なことに挑戦した4年間でした。大学生活で多くの人と関わることができたことは一生の思い出です。インター大会実行委員会では全国の学生や先生方と交流できましたし、就職活動では様々な業界の方々と話す機会がありました。色々な考え方を持った多くの人と出会うことで、新たな発見や考え方をすることが楽しく感じられるようになりました。

大学生活は楽しいことばかりではありませんでしたが、辛かったことも自分の成長には不可欠なことだったと思います。ときには挫折することもあるでしょうが、「興味を持って学ぶ」という心構えは変わることなく持ち続け、さらなる成長・自己実現を目指して頑張っていきたいです。



## 1部 経営情報学科



表彰学生

## 伊藤 理沙 さん

■出身高校 旭川西

■所属ゼミ 高木ゼミ

## —— 大学生活の思い出

## —— 経営学部に入ってよかったと思うこと

サークル活動が一番の思い出です。活動内容は小学生に楽しんでもらえる様な企画を自分たちで提案して、地域の小学生と交流するというもので、様々な活動を行っていました。

大学に入るまでは自分と年齢の近い人と接する機会しかなく、今まで関わったことのない小学生にどのように接したらよいのかと焦りを感じていましたこともありました。しかし、活動を通じてすぐに小学生とも仲良く話せるようになりましたし、彼らの輝く笑顔が見ることができて、また、一緒に企画・活動をしたサークルの仲間達とも仲を深めることができて、とても充実していました。

夏と冬の長期休業期間には、100人規模のキャンプを行なったことも、普段なかなか経験できない貴重な思い出となりました。

## —— 面白かった講義

どの講義も面白かったのですが、私が特に面白いと感じた講義は、「製品開発」です。日本製品のデザインが諸外国に比べて劣っているにもかかわらず、日本の企業はその現状を直視せず、技術のみで勝負しようとするも太刀打ちできなくなっている実態を知ることのできる講義でした。

講義を受けるまでは、日本製品のデザインに対してさほど関心がなく、技術力が高いからいいのでは、という単純な見方しかできませんでした。しかし、デザインの観点から日本の製造業をみると、現状に満足すると成長できない現実を知ることができ、違った視点から物事を見ることの面白さを実感させてくれました。

## —— 大学生活の思い出

経営学部はどの講義も面白くて、企業に勤める際に役立つ知識を学ぶことの出来る学問が充実している点だと思います。ゼミでは会計学を中心に学んびましたが、特に簿記は企業の財務状態・経営状況を読み解く際に必要な知識です、学んでいて損は絶対にないと思いました。

また、情報系の授業では、ワードやエクセルの基礎的な知識を始め、プログラミングなどより高度な知識も習得できたので、パソコンを抵抗なく使えるようになります、何より自信がつきました。

その他、経営学部と関連のなさそうな心理学系の講義があることも良かったです。実は経営学と関係が深い学問であり、普段の生活の中で起こる出来事と関連づけながら理解できる内容も多かったので、どの講義もとても興味を持って楽しく学べました。

## —— 卒業に際して思うこと

大学に入ってアルバイトやサークル活動、ゼミを通じて、たくさんの人と出会い、楽しいことやつらいことを数多く経験して、様々な影響を受けたこと、人や物事に対して深く関わることができたこと、経営学部の講義から色々な知識を得て、視野を広げることができたことは、私にとってはかけがえのない大きな財産になったと思います。

これらの大学生活における経験は、これから社会人として働いていく自分自身に少なからず自信や勇気を与えてくれるものだと自負しています。



卒業証書受領代表者

## 町田 憲保 さん

■出身高校 紋別北

■所属ゼミ 庄司ゼミ



卒業証書受領代表者

## 内田 彩 さん



卒業証書受領代表者

## 内田 彩 さん

■出身高校 岩見沢東

■所属ゼミ 高木ゼミ



## 授与学生の位置づけ

いては、別途、学生委員会において表彰学生とするか否かが検討されます)。

—— ここでは、2012年度の表彰学生に、大学生活の思い出や面白かった講義などについて聞いてみました。



## 2部 経営学科



■表彰学生

齊藤 尚 さん

■出身高校 伊達緑丘

■所属ゼミ 佐藤(芳)ゼミ

### —— 大学生活で印象に残っていること

色々な年齢層や職業の人と出会ったことです。若い人からはかつての自分の姿を思い出したり、そのパワーを感じて自分も進む力をもう一度もらいましたし、大人の人からは、同じ悩みや経験を持っていることや、全く違う考え方・視点があるということを学びました。私のゼミは幅広い年齢層の人が在籍し、自由に討議ができる雰囲気があったのでそういうことを強く感じたのかもしれません。

また、日々の講義では、一見すると無関係なことが自分の生活の意外なところにつながっていたりするというような、新しいことや知らないことを知るといった刺激的な経験をしました。そのことで、今まで知らなかつた世界が開け、自分の物事に対する考え方や姿勢が変わっていく実感を得たことも印象に残っています。

### —— 好成績の秘訣

講義の内容を暗記するのではなく、知識として蓄積できたことが好成績につながったのだと思います。単に黒板を書き写すだけではなく、何を意味しているのかをよく考えながらノートをとることで、本当の意味で理解できると思います。また、先生の話を聞いているときも同様に、何を話しているのか、講義のテーマや黒板に書いてあることとどう関連しているのかを意識しながら聞くことで、知識として身につくのだと思います。

仕事をしながら学校に通うとなると、多くの時間を勉強に割くことはできません。だからこそ一回の講義の時間を大切に、有効に活用しようと講義を受けていました。知識として知っておくことで、テス

トの際もノートを何度か見直すだけで済みますし、その知識を実生活の中で生かす機会も増えると思います。

### —— 経営学部に入ってよかったと思うこと

「企業」についてマーケティングや会計等、様々な切り口から体系的に学習でき、企業を俯瞰的に眺めることができるようになりました。買い物に行った際にも「この商業施設はどういう運営されているのだろう?」、「似たような製品だけど、こんなところで差別化しているのだな」と考へるようになり、買い物が楽しくなりました。

また、企業が人間で構成されている以上、その心理面での影響を無視して考へることはできません。そういう意味で人間の心理を知ることは不可欠であり、他の大学の経営学部にはない専門の教員による心理学の講義を受講できたことは、大変有意義だったと感じました。

### —— 卒業に際して思うこと

学校へ通わなくてもよいという解放感の一方で、もうゼミ活動をしたり、学食を食べたりといった楽しい学生生活が終わってしまうという寂しさが入り混じった不思議な心境です。

仕事をしながら学校に通うことは、大変なことでしたが、4年間、ひとつのことを作成したことは大きな自信になりました。何より多くの人に出会い、多くのことを知ったことで、ものの見方が変わり視野が広くなったように思います。このことは、大きな財産となるでしょうし、これから的人生をより豊かなものにしてくれると確信しています。



■卒業証書受領代表者

南 結梨花 さん

■出身高校 滝川西

■所属ゼミ 大場ゼミ

## 過去の表彰学生、証書授与学生一覧

### 1部 経営学科

#### ■表彰学生

卒業年度	氏名	出身高校	所属ゼミ
2006年度	古川 明生	大検	内田ゼミ
2007年度	富田 未邦子	釧路湖陵	菅原(浩)ゼミ
2008年度	本野 隆一	札幌篠路	伊藤ゼミ
2009年度	横山 智佳	帯広柏葉	赤石ゼミ
2010年度	山崎 直子	札幌清田	澤野ゼミ
2011年度	井上 雄太	札幌清田	今村ゼミ
2012年度	岡田 美帆	千歳	高木ゼミ

#### ■卒業証書受領代表者

2006年度	西川 智美恵	俱知安	高木ゼミ
2007年度	竹中 徹	苫小牧東	田中(史)ゼミ*
2008年度	小川 未夢	札幌平岸	福永ゼミ
2009年度	野村 枝里子	根室	増地ゼミ
2010年度	山口 真依	札幌旭丘	庄司ゼミ
2011年度	福山 八尋	北海	大平ゼミ
2012年度	町田 憲保	紋別北	庄司ゼミ

### 1部 経営情報学科

#### ■表彰学生

卒業年度	氏名	出身高校	所属ゼミ
2006年度	湯浅 紫織	苫小牧東	内田ゼミ
2007年度	多田 優基	札幌東商業	福野ゼミ*
2008年度	常塚 玲花	札幌東商業	高木ゼミ
2009年度	松代 将吾	小樽潮陵	今村ゼミ
2010年度	佐々木 垣美	北海	田村ゼミ
2011年度	大西 保奈美	札幌東商業	赤石ゼミ
2012年度	伊藤 理沙	旭川西	高木ゼミ

#### ■卒業証書受領代表者

2006年度	待島 亘	札幌新川	世良ゼミ*
2007年度	若原 則彦	函館商業	福永ゼミ
2008年度	奈良岡 恒	岩見沢緑陵	天笠ゼミ
2009年度	渋谷 紗智枝	大麻	増地ゼミ
2010年度	高橋 祐美	江別	庄司ゼミ
2011年度	菊谷 佳由	クラーク記念国際	森永ゼミ
2012年度	内田 彩	岩見沢東	高木ゼミ

### 2部 経営学科

#### ■表彰学生

卒業年度	氏名	出身高校	所属ゼミ
2006年度	加藤 丈晴	有朋	—
2007年度	堀井 誠	小樽潮陵	—
2008年度	菅原 美紀子	札幌平岸	山中ゼミ
2009年度	増輪 早紀	札幌国際情報	—
2010年度	武藤 直子	市立前橋女子	菅原(浩)/赤石ゼミ
2011年度	岸田 静香	札幌東商業	五十嵐ゼミ*
2012年度	齊藤 尚	伊達緑丘	佐藤(芳)ゼミ

#### ■卒業証書受領代表者

2006年度	岡本 麗子	札幌藻岩	世良*/田村ゼミ
2007年度	坂東 奈穂美	札幌旭丘	田中(史)ゼミ*
2008年度	山根 正子	札幌静修	—
2009年度	上田 望美	苫小牧東	大平/澤野ゼミ
2010年度	加藤 卓也	札幌平岸	五十嵐ゼミ*
2011年度	田中 美貴	札幌東	五十嵐*/田村ゼミ
2012年度	南 結梨花	滝川西	大場ゼミ

\*五十嵐先生、世良先生、田中(史)先生、福野先生は、他大学へ転出



# 伊藤 友章先生『ワシントン大学在外研修記』

経営学部では、伊藤友章先生(担当:マーケティング、消費者行動)が研究活動の目的で2012年4月から2013年3月までの間、ワシントン大学へ在外研修していました。今回、伊藤先生にワシントン大学での在外研修記を記してもらいました。

## —— シアトルという街

米国ワシントン州シアトルにあるワシントン大学 Foster School of Businessに客員研究員として滞在しました。ワシントン州は、アメリカ太平洋岸北部に位置する州で、シアトルはその中で最大の都市です。緑と湖と海に囲まれ、夏は札幌以上に過ごしやすい日が続きます。その一方で、冬を中心に雨の多い街としても有名です。しかし、その雨と引き換えに、ワシントン州には The Evergreen Stateという愛称があるほど豊富な緑に恵まれています。

日本では、昨年まで約10年以上にわたり、シアトル・マリナーズにイチロー選手が在籍したことですっかり有名な街になったと思います。同時に、マイクロソフト、アマゾン、エクスペディア、スタートアップス、タリーーズ、コストコと日本でもおなじみの米国企業が周辺に本社を構えている街でもあります。住んでいる人々の気質は総じて穏やかでリベラル、異國の人間にも寛容です。また米国内の他の都市と比べると治安も良く、特に我々アジア系の人間にとっては非常に住みやすい街といえます。

## —— ワシントン大学について

ワシントン大学は、2年前に創立150周年を迎えた歴史と伝統のある名門大学。地元ではUW(ユーダブと呼ばれています)の愛称が定着しています。暮らしやすい街であるシアトルを反映し、世界中から様々な学生がやってきます。レッドスクエアというキャンパスの中心には、常に各国の学生会のブースが出て、多様な学生たちで常に活気にあふれています。「人種のるっぽ」という、もはや使い古された米国社会を形容する言葉の意味が、この地にいるとまさに実感することができます。



## —— 恵まれた教育環境

在籍したビジネススクールは、U.S.Newsのランクで全米23位、Evening MBAでは全米10位という実績を残しています。

シアトルを代表する大学のビジネススクールには、先述したシアトル周辺の企業の人々が、様々なシンポジウム、パネルディスカッションはもとより、普段の講義のゲストスピーカーやプレゼンの審査役としても頻繁にやってきます。1年の間に、ボーイングのマーケティング副社長、マイクロソフトのX-BOXのブランドマネジャー、現在の米国の代表的小売業の一つであるTargetのストアマネジャー、数々のベンチャー経営者等々多くの実務家の話を聞く機会を得ました。

年間通じて頻繁に行われるビジネススクールのイベントの中でもとりわけ大きいのが、1月にスタートし、5月にファイナルを迎えるBusiness Plan Competitionでしょう。ビジネスプランのコンペは多くの米国の大学で行われており、決して珍しいものではありません。しかし、ここではプランを作成していくための準備が、冬学期の間、授業として展開されています。毎週、マーケティング、ファイナンス、法律等の分野の専門家がやってきて、プラン作成に必要な知識を伝授していきます。さらに、過去のコンペのWinnerとのディスカッション、プラン作成のパートナー探しおよびネットワークづくりのためのレセプション、情報交換のためのメーリングリストも用意されます。最後にレポートを提出し、評価を受けることで単位も取得できます。

こうしたイベントを通じて、この大学の学生は、勉強のため、自身の将来を構想していくための様々な機会に恵まれていると感じます。

## —— UWの学生気質

大学では自分の研究を進めるだけでなく、日本での授業改善のヒントを得るために、学部(undergraduate)やMBAの講義にも出席していました。

日本の大学とは異なり、多くても80人程度のクラスがほとんどです。そこでは多くの米国の大学と同様に、学生は積極的な発言が求められます。その発言に対して、ある先生はポジティブな言葉を返しながら、ある先生はWhy? How? を繰り返し問い合わせながら、さらに意見を引き出しています。さすがに優秀な学生が揃っているなと感じさせられますが、上昇志向が強烈な野心家や他人を押しのけて自説を得々と述べようとするタイプはほとんどいません。むしろ自分の意見を発言すべき時にしっかり発言する一方で、他者を尊重し他者の意見にしっかり耳を傾ける学生が多いといえます。

## —— グループワークの重視

大学では、多くの授業で4~5人1組のチームによるグループワークが重視されます。このチーム単位で宿題(assignment)がしばしば課され、さらに最終レポートやプレゼン、授業時間内での簡単なグループ討議が行われることもあります。そのチームでのグループ学習の場として、校舎内にはチームルームがいくつも用意され自主的に学ぶ姿が見られます。このチームの編成では、なるべく多国籍になるようになされているとのことです。

このチーム活動において、違う国、人種の学生同士が対等に議論し、苦楽を共にしていくことになります。勉強そのものも大変な米国の大学ですが、実際に学生にとって大きな財産となるのはこうした少人数での活動を通じた人的繋がりの方なのかもしれません。



## — アメリカの研究者育成 —

自分の研究も滞在を通じて進めることができましたが、この研究面で、最も印象的だったことは、ワークショップ、国際学会、各種学会イベントに参加する機会を多く得たことで、米国のマーケティング研究者育成のシステムとその最前線を間近で見たことでしょうか。

掲載の困難なトップジャーナルに次々に研究成果が発表されていくその原動力をを見せつけられ、これまでの自分の研究者としての未熟さを突きつけられることになります。その一方で、研究業績を大量生産していくこと自体が目的化していく、それがおかしいと感じつつも若手、中堅研究者はアクセルを踏み続けるしかないというネガティブな側面も徐々に見えてきました。

スケールの大きさに圧倒される、そこにはまだ学ぶべきことが確かにある、しかし、同時に大きな矛盾をも抱え、それを止められない。私が直接経験したのはマーケティング研究という非常に狭い世界の話です。しかし、わずか1年間の滞在の中で、似たようなことが米国社会の様々な側面にみられるようにも感じされました。グローバル化の進む世の中で、アメリカ的なものにどう付き合っていけばよいのか、どんな立場であっても、ますます突きつけられるのであろう難しい課題です。

## — 薄れるアメリカの中の日本の存在とその中で気づいたこと —

シアトルのような日本および日本人に好意的な土地であっても、日本の存在感が薄れいることを感じられずにはいられませんでした。アジア系学生の多いUWキャンパスでも目立つのは中国人、韓国人、インド人といったところです。私のスポンサーの先生は日本にも何度も来られている親日家ですが、今年度で退職されました。このほかにも日本企業を研究していた人、日本に縁のあった人が徐々に第一線を去っています。MBAの授業でも、ケーススタディで取り上げられる日本企業は80年代までのものばかり。シアトルに米国本社をおく任天堂もケースディスカッションで取り上げられていたのはファミコン時代の話です。日本の研究者の発信不足もきっとあるのでしょうか、かつてのホンダやソニーのように、欧米の研究者たちがある種の尊敬の念をもって関心を示すものがなのではないか、寂しい話ですが、そんな気もします。

しかし、こうした経験は私の今後の教育・研究に方向性の1つを与えてくれるものもありました。ほんのささやかなことであっても日本のことを探してもらえる機会があるのならば、積極的に取り組みたいと思っていますが、そのため私がしなければならないことは、前述したアメリカ型の教育・研究システムの中ではむしろ生み出しえないような研究や教育方法の開発といったことでしょう。渡米前にもある方から「多少英語が拙くとも、相手にとって面白い話が出来るのなら相手は一生懸命聞くとするものだ。要はみんな面白い話を聞きたいんだよ」と言われました。日本発のその面白い何かを研究あるいは教育を通じて作り出していけるのか、大きな宿題を持って帰国することになったと思っています。



## — ある日系企業との出会い —

そうした思いをもとに新たな研究テーマもスタートしたいところですが、これについてはシアトルのダウンタウンの対岸にあるベインブリッジ島という地に本拠地をおく、日系アメリカ人が経営する小売企業へのインタビュー調査の中で、その手がかりを一つ得ることができました。

この会社の創業者は20世紀初頭に一家で米国に渡り、戦前、戦中の日系アメリカ人の苦難の歴史を経験し、戦後、その後継者がグロッサリーストアとして会社を発展させ、今や彼らのfamilyは、ベインブリッジの名士となっています。お会いしたCEOは日系3世で日本語はほんの片言程度という方でしたが、店内はアメリカの大型スーパーにはない美しさがあふれています。そしてその店舗づくりの背景にある面白い考え方を、CEOのインタビューの中で発見したわけです。それについてご本人は「日本なら当たり前の考え方を実践しているだけだ」といいますが、彼の言うように、それが今の日本企業にもみられるのかどうかを明らかにできるのなら、ささやかなものでも海外で本当に興味を持つてくれる研究につなげていけるかもしれません。

またインタビューの中で「私たちはどこからきたのか、なぜ今ここに立てているのか。このことを常に意識していきたい」と、大変印象的な言葉も残してくれました。日系アメリカ人の歴史とともに歩んできたこの会社のことは、研究だけでなく、授業やゼミの教材として、幅広く学生のみなさんに紹介する価値が十分にあると思っています。

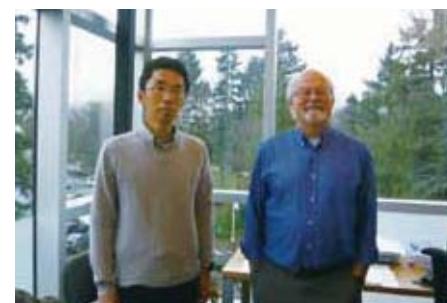
## — 留学を考えている人へ —

私はUWしか知りませんので、もしあなたがUWに留学することになったら…という仮定で話してみます。

この大学には、日本から留学するには、様々な面でとても素晴らしい環境が整っています。しかし、米国内外の学生たちが共通言語で対等にグループワークを行い、授業では積極的な発言が次々に飛び交う。その姿を実際に目の当たりにした時には、いったい自分はこれまで何をしてきたのだろうか?と大いにショックを受けるかもしれません。しかし、必要以上に落ち込む必要はありません。それはお互い小学校時代から受けた教育方法自体が違うのです。確かに、彼らは、人前で自分の意見を発信する力やプレゼンの表現力などは日本の学生よりもはるかに優れています。その反面、基本的な知識の理解が少し抜け落ちていたり、勉強したはずのことが十分に消化されていなかったりすることもあります。

グローバル化の時代に生きていくために、アメリカの大学の学生から謙虚に学ぶべきことは沢山あるでしょう。しかし、質の異なる教育をしっかり受けている皆さんには、彼らにはない能力を有しているはずです。まずは目の前の学ぶべきことをしっかりと学ぶことで、その能力を研ぎ澄ましてほしいと思います。他者を尊重し、その意見に耳を傾けるUWの学生たちなら、きっと興味を持って受け入れてくれるでしょう。逆にその能力がなければ、どんなに英語を流暢に話すことができても、それほど関心を示してくれないかもしれません。

私も、UWでみてきた教育方法や学生の姿を日本の授業の中で意識する同時に、日本の学生の長所を生かすということを念頭に置いた教育をしていきたいと思っています。

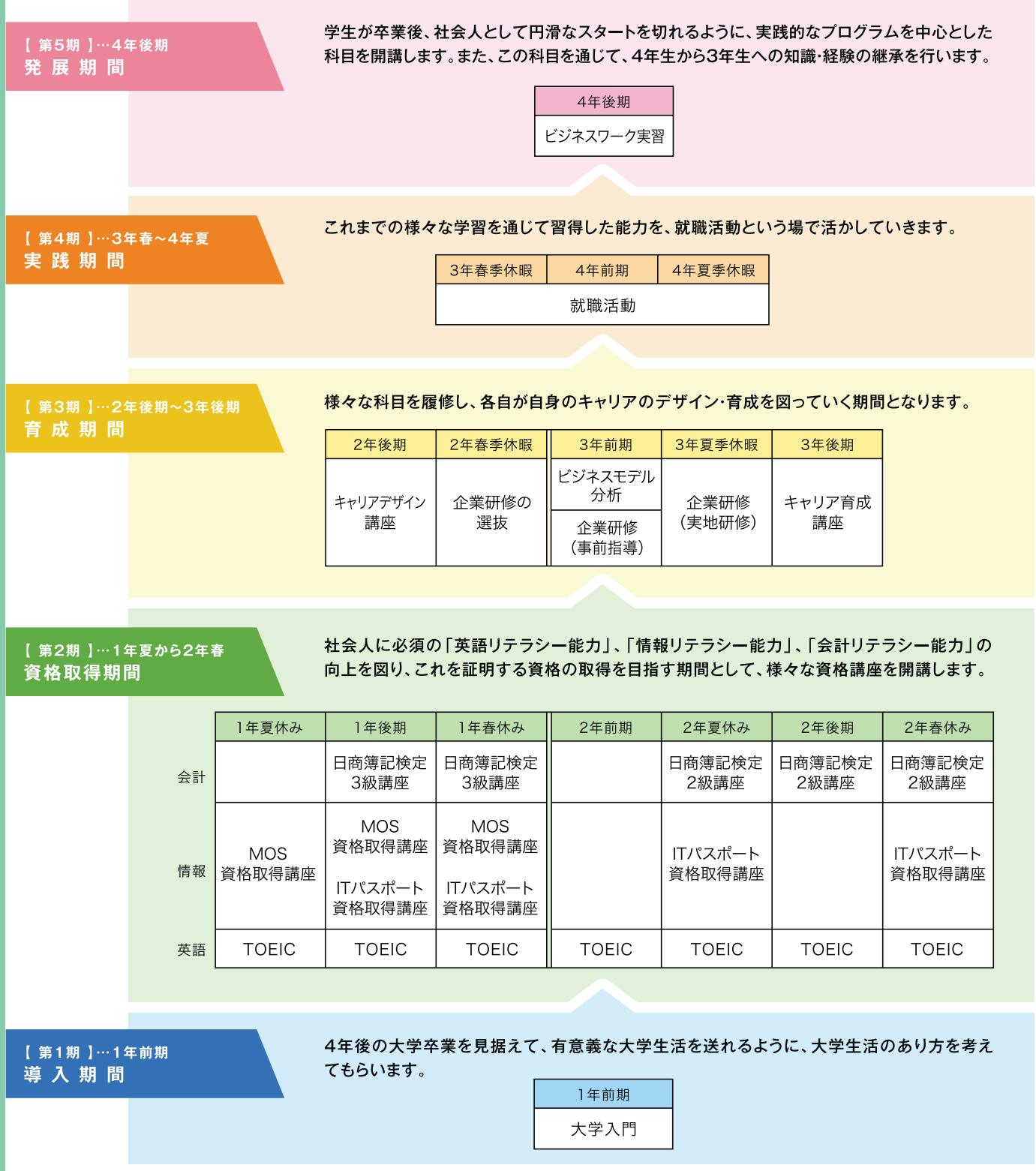


# キャリア・サポート・プログラム

経営学部では、キャリアという概念を「ビジネスマインドやビジネススキルを習得することを通じて社会的・職業的に自立するために、必要な基盤となる能力や態度」といったビジネスキャリアの範囲で捉えています。

そして、キャリア形成に関する道筋をより明確に示すために、経営学部CPS(キャリアサポートプログラム)を構築しています。

経営学部CSPでは、以下の5つの期間に大別して、学生のキャリア形成に関する段階的学习の実現を図ります。



## キャリアデザイン講座

この講義では、卒業後のキャリアと関連づけて、大学における学習を理解してもらうことを目標に、2つの特徴を持たせています。

### 1 学外の専門家による指導と講演

現在予定しているプログラムは、キャリアバンク株式会社の協力を得て、各自が理想とするキャリアをデザインし、その実現に向けた大学生活のあり方や自己PRの方法など、グループワーク実習を中心に展開されます。また、労働局から講師を招いて就職の現状などを講演して頂きます。

### 2 3年生による「企業研修」の報告と研修先企業の担当者による講演

3年次の「企業研修」で具体的に何を学び、何を得ることができるのか、先輩の報告とともに、企業担当者からは、求められる人材像など貴重な話を聞くことのできる、またとない機会が提供されます。



キャリアデザイン講座の講義風景



ピクト図解

## 企業研修

この講義は、大学で学んだ知識や思考方法と実社会とを繋げることをねらいとしています。具体的には、①事前指導、②実地研修、③事後指導の3期で構成されます。

### 1 事前指導

研修先企業や業界について、教員から個別指導を受けながら分析レポートの作成を行います。また同時に「ビジネス・マナー講座」も開催され、外部の講師による実践的で、きめ細やかなマナー指導があります。

### 2 実地研修

経営学部と独自に協定を結んでいる企業（下の表参照）において、夏休み期間中の2週間程度、現実のビジネスの現場を体験します。

### 3 事後指導

実地研修を通じて学習したことをまとめ、キャリアデザイン講座の時間にプレゼンテーションを行います。

「企業研修」は、ただ数日間インターンシップに行って終わりということではなく、事前・事後の指導も含めた綿密な計画のもとに研修を行う点が大きな特色となっています。



ビジネスマナー講座

事後報告

## ビジネスモデル分析

この講義は、以下の3つの特徴があります。

### 1 実践性

3Cや4P、5要因分析やSWOT分析などの分析ツールを使って、実際の企業のビジネスを分析します。2013年度は、ニトリやアークス、ゲオ、しまむらといった比較的身近な企業を取り上げて、分析してもらいました。

### 2 少人数のクラス

履修者は30名前後に制限されています。そのため、グループワークを中心とした運営スタイルを探ることができ、履修者の自主性や積極性を養い、対人能力の向上を図ることが可能となっています。また、担当教員との距離が近いことも特徴的です。

### 3 有用性

この講義は、企業研修の事前学習の機会として位置付けられますが、ここで学習した企業やビジネスに対する見方は、就職活動での業界研究や企業研究、さらには実社会でのビジネスシーンでも応用して使うことができます。また、少人数のグループワークで培われる対人能力は、就職選考過程で実施されるグループディスカッションで優位性をもたらすことでしょう。



5要因分析



グループワークの風景

## 実地研修先企業・団体一覧(2013年度)

[50音順]

- アイ・ティ・エス株式会社
- 株式会社 アイワード
- 石屋商事株式会社(石屋製菓)
- 恵庭リサーチ・ビジネスパーク株式会社
- 森観光株式会社
- 株式会社 きのとや
- キャリアバンク株式会社
- 税理士法人 共創経営システム
- 株式会社 グランピスタ ホテル&リゾート（札幌パークホテル）
- 株式会社 恵和ビジネス
- 資格の学校 TAC株式会社 札幌校
- 株式会社 ツルハ
- 苫小牧埠頭株式会社
- 株式会社 ニトリ
- 株式会社 ニトリパブリック

- パナソニック システムネットワークス株式会社  
システムソリューションズジャパンカンパニー北海道社
- 富士通エフ・オー・エム株式会社 東日本営業本部  
北海道支店
- 株式会社プリプレス・センター
- ホーマック株式会社
- 北海道オフィス・マシン株式会社
- 株式会社 北海道銀行
- 社会福祉法人北海道光生舎
- 北海道中小企業家同友会産学官連携研究会  
(HoPe)会員企業
- 株式会社 毎日新聞社 北海道支社
- 丸水 札幌中央水産株式会社
- 丸善株式会社 札幌支店
- 株式会社 モロオ

## 経営学部CSP担当教員



後段左から、庄司、関、田中、田村、上田、古谷、森永  
前段左から、赤石、石嶋、大石、天笠

# 就活 Labo

## 就職内定率

### 経営学部の内定率

経営学部の就職内定率は、1部90.4%、2部84.6%(2013年5月1日付:前年度1部84.4%、2部72.7%)。比較対象となる北海学園大学全体で1部88.7%、2部78.8%(前年度1部81.4%、2部73.1%)となっている。また、厚生労働省の「大学など卒業者の就職状況者調査」では、93.9%となっている(同年4月1日付)※。

### 一般に言われる「内定率」の算出方法

内定率は、「就職決定者数÷就職希望者数」で計算されます。この数値は、就職希望者のうち、どれだけの人数が就職したか(内定を得たか)を示す割合で、一般に進学や留学、ニートやフリーター、公務員浪人となる人の数が分母から除外されます。

また、どの時点での就職希望者をもって内定率を算定するかによって、算出される就職率が変わってくる点に注意が必要です。例えば、卒業段階で数値を作成する場合、当初就職活動をしていたものの、途中で挫折し、就職をあきらめた学生が母数から除外される可能性があります。また、複数の企業から内定をもらったケースを単純合計したり、臨時採用や契約社員などの非正規雇用も含めて就職決定者とし、分子を水増しする場合もあるともいわれています。

### 北海学園大学の「内定率」の算出

北海学園大学(就職部)では、内定率の算出を以下の式で計算しています。

$$\text{北海学園大学の内定率} = \frac{\text{正社員としての就職決定者数}}{\text{3年生12月時点での就職希望者数}} \times 100\%$$

そのため、一般に比べ、数値が低くなる傾向があります。例えば、本学では、(就職の意図がさほど大きくなとも)とりあえず就職希望の届けを出した学生も就職希望者として扱うので、内定率を算定する際の分母の就職希望者数が膨らむこととなります。また、分子の就職決定者については、正社員としての就職を念頭に置くため、臨時採用や契約社員などが除外されるので、内定率算定のための就職決定者数はより少なく見積もることとなります。

\* 調査対象校112校(国立大21校、公立大3校、私立大38校、短大20校、高専10校、専修学校20校)から、調査対象人数6,250人を抽出したのち、電話・面接などの方法により、就職希望の有無、就職状況などにつき調査。この調査には、「就職に有利な国公立大学の比率を高くし、「就職希望者数を抑える」とによって、数字としての率を上げているとの批判もある(海老原赳夫、2012.就職に強い大学・学部、朝日新報)。

## 2011・2012年度卒業生内定先一覧(1部および2部)

農業・漁業	高見農産、柏陽堂	民間	公務
建設	オカモト、川田工業、きんぐん、杉原建設、田中組、丸彥渡		
(総合・職別・設備工事)	辻建設、三ツ輪商会		
建設	アーキビジョン21、北海道セキスイハイム、タマホーム、副		
(住宅・住宅販売)	地主住宅販売		
食料品・製造業	加藤水産、きのとや、クロストジャパン、ケイシイシ、モリタ、吉川食品、ロバソン		
飲料製造業	北海道コカ・コーラボottリング、よつ葉乳業		
織織製造業	ミキハウス、東京スタイル、レナウン		
化学(医薬品)	アボットジャパン、小野薬品工業、科研製薬、グラクソ・スミスクライン、富士薬品、扶桑薬品工業、サエグサ薬品、ゼリア新薬工業		
化学(化粧品)	イーベーム		
化学(肥料)	住商アグリビジネス		
印刷	エーモ、札幌大同印刷、総合商研、東洋印刷、凸版印刷		
パルプ・紙・紙加工品製造業	トモク		
製造業(鉄鋼・金属製品・機械器具)	カクダイ、三和シャッター、ノーリツ、マスプロ電工、ヤマザキマック、リナナイ		
その他の製造業	アスリートクラズ、アルケア、河合楽器製作所、極東高分子		
電気・ガス・熱供給・水道	旭川ガス、岩見沢ガス、北海道パワーエンジニアリング、北海道電力		
通信業	エヌ・ティ・ティ・ドコモ、NTT東日本・北海道、ソフトバンクテレコム、ソフトバンクモバイル		
放送	旭川ケーブルテレビ		
情報処理・情報システム	I-TECソリューションズ、エイチ・アイ・ディ、エイチ・エル・シー、エコミック、SOL、SOC、NECソフト、NTTデータファイナンシャル、キーウェア北海道、北第百通信電気、クレスソフト、コアラティック、さくら情報システム、ドゥエル、日本コンピュータシステム、日本オフィス・システム、ビーエムジー、FAITEC、富士通北海道システムズ、ペイロール、北海道日本電気ネットウェア、北海道CSK、ユーバーサルコンピューター		
情報サービス	プロコボレーション		
鉄道	北海道旅客鉄道		
航空運輸	北海道国際航空		
運輸に付帯するサービス業	ANAエアポートサービス、ANA千歳空港		
物流・運送	エア・ウォーター・物流、エース、永大運輸、小樽倉庫、共通運送、サカイ引越センター、佐川急便、トウクンサービス、日本通運、栗林商会、栗林商船、札幌定温運輸、トランシス、北洋運輸、北海運輸		
郵便事業	郵便局、日本郵便		
卸売・小売(飲食料品)	NHC、大槻食材、桜井通商、札幌ヤクルト販売、ジュレン園分、高瀬物産、ナシ、東日本フード、ピュア、丸久札幌青果、丸札幌中央水果		
卸売・小売(建材・鉱物・金属材料)	カナディアン・ソーラー・ジャパン、クワザワ、大豊資材工業、高橋産業、永次クロス、ナトリ、ハワウング山地、阪和興業、道立ハイウェイ		
卸売・小売(家具・エクステリア)	北ガスフレアスト西、二トリ、土屋ホームヒバ、長谷川産業		
卸売・小売(石油製品・燃料)	一高たかはし・小林本店、札幌第一興産、JOMOネット、南関東北海道エア・ウォーター、北海道エナジテック		
卸売・小売(機械・農業機器)	ヰセキ北海道、岩崎、OSGコーポレーション、太平洋興産、竹山、テンボスバスター、ナカラキ産業、日本ニューホランド、ピコンジャパン、富士エンヂニアリング、北海道クボタ、マツダ、三菱電機環境工機・ヒュート		
卸売・小売(事務機器・OA関連)	アドウェック、大塚商会、オフィス24、オムロンフィールドエンジニアリング北海道、キヤノンシステムアンドサポート、コニカミルタビジュアルシステムズ		
卸売・小売(自動車)	石上車輌、ガリバーインターネットショナル、ケーユーホールディングス、釧路トヨタ自動車、札幌トヨタ自動車、札幌トヨペット、トヨタカローラ札幌、ネットトヨタ札幌、ネットトヨタ道南、函館トヨタ自動車、北海道いすゞ自動車、北海道スバル、北海道日産自動車、北海道マツダ販売、北海道三菱自動車販売		
卸売・小売(自動車関連)	トヨタ部品北海道共販、ダンロップタイヤ北海道、日本特殊陶業、日本ボーネ、パーツ工業、デンソーバイオード、マタイジャパン		
卸売・小売(家電)	三菱電機ライネットワーク、ソニーリージナルセールス		
卸売・小売(化粧品・医薬品)	あらた、寿薬品、東邦ホールディングス、Paltac、ほくやく、ほくやく・竹山ホールディングス、モロッ、鈴内薬品		
卸売・小売(服飾・小物)	アルファベットパラティ、アビテックス、しまむら、ジャパンマイジニアージョン、シャマルヒラ、スタートトゥデイ、セーザ、タカキュー、トリンド・インターナショナル・ジャパン、双葉洋装店、ブルーム21、ビギ、ブリモジャパン、ボイン、ミサンガインターナショナル、ユナイテッドアローズ、ユニクロ、ライトオン、ワコールミミット		
卸売・小売(書籍・文房具・事務用品)	エースプロジェクト、オカモト、大丸藤井、ダイヤ書房、ビジネスネットワーク、北海道クラウン、リラップル		
卸売・小売(スポーツ用品)	ゼビオ、ドームヒューマンキャリアス		
百貨店	札幌丸井三越、東急百貨店		
スーパーマーケット	イオン北海道、コープさっぽろ、西友、ダイイチ、ふじ、ホクレン商店、マックスバリュ北海道		
コンビニエンスストア	セイコマート、セブン-イレブンジャパン		

### 表紙



[講義風景]  
ビジネスモデル分析での  
グループワーク

左から  
山崎美和(出身高校:札幌北陵)  
井上真耶(出身高校:大麻)  
佐藤 開(出身高校:小樽潮陵)

## vol.22 PASSAGES Next Issue

2014年2月発刊予定

### 実習科目の紹介

海外総合実習／行動科学実験実習

### キャリア教育の紹介

企業研修／ビジネスモデル分析

### 教員の研究紹介

【在外研修編】青木千加子先生

【科学研究費補助金採択研究】

### 就職Labo